



清 央 小 だ よ り

令和5年度 第19号
2023.12.5 文責 室田和宏

教 育 目 標 「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」
・自ら学び工夫する子ども (考える)
・元気でがんばる子ども (鍛える)
・礼儀正しく思いやりのある子ども (思いやる)

子どもは行事で育つ！収穫祭！土曜授業・清央祭！！



「焼き芋焼けたかな？」かまどをのぞき込む子どもたちの表情からは、ワクワク感が伝わってきます。校庭に12個並んだドラム缶は正に壮観です。24日の収穫祭では、OB会の方や地域の皆様、PTAのボランティアの皆様のご協力で、とても豊かな体験をすることができました。畑の土づくりから始まり、苗植え、つるきり、収穫、そしてこの日の収穫祭と、OB会イモレンジャーの皆様にはずっとご尽力をいただきました。また、夏の除草では暑い中PTAの皆様にご作業をしていただきました。たくさんの皆様のご協力があって、収穫祭がなりたっているところに、この行事の特別感があります。心から感謝申し上げます。

そして、12月2日は土曜授業と清央祭。午前中は生活科の学びの様子や、総合的な学習（夢チャレンジタイム“清原学”）の発表をご覧いただきました。清原地域の交通（LRTや水運）や地域の史跡に目を向けた学習の成果を一生懸命発表する姿が見られました。清央祭は、PTAの実行委員を中心に、地域の方々の全面的な協力を得て、盛大に復活を果たしてくれました。子どもたちの笑顔はじける、温かな時間が過ぎていきました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。



働き方改革とカリキュラムマネジメント<シリーズ①地域との連携>

昨今、教職員の長時間勤務の常態化が社会的に大きな問題となる中、本市におきましても、教職員の業務の適正化を図っているところで、もれなく本校におきましても、喫緊の課題となっています。

第1回目の今回は、地域との連携からの業務改善について触れます。収穫祭の取組、子どもたちを真ん中に置いて、たくさんの皆様力を結集するこの行事には、まさにその方向性が表れているように感じます。これだけの大イベント、学校だけで実施したらどれだけの時間と労力が必要か。そもそも実施不可能でしょう。他校に紹介すると“どうしてできるの？”と大抵は驚かれます。また、文部科学省から「基本的に学校以外が担うべき業務」として示されたものの一つに『登下校時の対応』があります。本校では、リーダーのもと、スクールガードがとても献身的に活動していただいているため、また、育成会やPTAによる活動も活発で、学校職員は定期的な見守りや、適時的な安全指導ポイントを絞ることができており、話題になる前から体制が整い、大いに助けられています。